

第31回(通算1689回)例会報告	令和7年2月28日(金)	フォーラム「国際奉仕」
ゲスト	米山奨学生 ツオルモン アリウナーさん	
出席報告	総会員数54名(計算会員数50名) 欠席8名 出席率84.00% 前々回修正出席率89.58%	
歌/会場	春よ来い	会場：ロワジールホテル豊橋 30F「ル・モン」12:30～

会長の時間

本多英司会長



みなさんこんにちは。
 早いもので今年ももう2か月が過ぎようとしています。最近つくづく以前お話したジャーネーの法則について、身をもって感じているところです。

意義でゆとりある時間を共有する機会を提供します。春の朝の清々しい空気を感じながら、いつもと違った空気感の中で会員相互の親睦をさらに深めるための例会とします。

それ以外の事項として、プログラムの都合事情、4月4日の春を感じる例会と翌週4月11日の卓話例会の入替をさせていただきます。

それから、以前お話したかと思いますが、今年も昨年同様に、5月9日の例会を10日土曜日に例会変更し、名古屋で開催されるRFFに参加して、その場で例会を開催することとしました。バスでみなさんと一緒に楽しく行きたいと思っています。近々ご案内が流れますので、是非今からご予約をお願いいたします。

それからもう一つ、5月23日に予定している1700回記念例会についてのプランが提出されました。高橋プログラム委員長渾身のプログラムとなります。

スポーツ選手の成功体験や挑戦の精神は、ビジネスや地域活動にも通じる貴重な学びとなり、発する言葉はリーダーシップや挑戦の重要性を伝え、クラブ活動への新たな視点を提供します。また、社会貢献活動に取り組む選手も多く、ロータリーの理念と親和性が高い点も魅力です。1700回という節目の例会で会員やゲストに刺激を与えることにより、クラブの魅力をもさらに高め、会員拡大にも繋げていきたい。という事で元中日ドラゴンズの川上憲伸氏をお招きする予定です。

折角ですので、新入会員候補者への公開例会とする予定です。みなさま楽しみにしててください。

先日「節分」についてのお話をしました。今回はひな祭りについてお話したいと思います。年中行事の中でも特に大切だとされる「五節句」の2番目にあたる「上巳(じょうし)の節句」ともいわれ、ひな人形を飾り、女の子の健やかな成長を願う行事です。

また、旧暦の3月3日頃は、ちょうど春が訪れて桃の花が咲く季節のため、「桃の節句」とも呼ばれています。

ひな祭りの起源は諸説ありますが、中国ではこの日に水辺で身を清める「上巳節」という行事があり、これが平安時代に日本へ伝わり、貴族の女の子が人形で遊ぶ「ひいな遊び」が合わさってひな祭りの原型ができた

今日の会長に時間では、まず先週の理事会での承認事項を報告させていただきます。

① 3月7日 広報担当例会

第2760地区、公共イメージ向上委員会 委員長の古市晃久氏をスピーカーとしてお招きします。テーマは「ロータリー公共イメージの向上」とのことです。

② 3月14日 社会奉仕委員会担当の環境保全例会

毎年支援活動をしている豊橋動植物公園から、日々ヤマトサンショウウオやアカモズを調査したりレスキューしたりと、実際に最前線で活動されている職員である、櫻間まゆ様をスピーカーとしてお招きします。テーマは「動物園の取組と環境保全について」。動物愛にあふれ、これからの豊橋動植物公園ほ発展に欠かせない、保永委員長一押しの方です。とても楽しみです。

③ 3月21日 卓話例会について。

講師は、一般社団法人パーソナルラボから専務理事の金田文子さんをお招きします。テーマは「伝えたい相手に伝わるプランニング」～入りたい・続けたい“両想い”の組織作り～。彼女の社団法人では、20数年間職員の離職はゼロ。そんな両想いの組織づくりの秘訣と、今、当クラブではSNSなどを活用していますが、伝えたい相手にしっかりと想いを伝える方法などについてお話しいただき、これからのクラブ運営と組織づくりについて考えたいと思います。

④ 3月28日 ゆとりの例会

今年度2度目となる「ゆとりの例会」です。早朝に開催することで、メンバーが日常生活や仕事に支障をきたさずに参加できるよう配慮し、有

されています。

古くから日本では、人の形を模して作った「ひとがた」で自分の体を撫でて厄を移し、水に流していました。今でも一部の地域では「流し雛」の風流として残っており、この「ひとがた」がひな人形の始まりという説もあります。

最近のひな人形は、昔ながらのものも当然ありますが、陶器であったり掛け軸であったりいろいろなタイプのものでできています。私の実家は田舎だったこともあり、7段飾りの大きなおひなさまが一部屋丸々使って飾られていたのを覚えています。

いずれにしても、子供が健やかに育ってほしいという心は時代を経ても変わりません。

先週、古代エジプトの壁画に「最近の若者は…」と書いてあったとお話しましたが、どれだけ時代が流れても、人の考え、感情、想いというのはそれほど変わるものではないんだと思うと、ジャンネーの法則もまた永遠に繰り返されていくのだなと少しホッとします。

以上、会長の時間でした。ご清聴ありがとうございました。



これに当てはまります。世界平和に目を向けるといった活動の規模に戸惑う方もいるかもしれません。

しかし、決議 23-34 にもある通り、クラブで行う奉仕活動は見本であり活動の原則は個人奉仕です。

先々週に卓話をいただいた半田ロータリークラブの松石様の個人的にもブータンへの熱い想いを聞きました。そんな個の想いが豊橋ゴールドンロータリークラブとして村松国際奉仕委員長を結びつけたんだなと思いました。

フィリピン、ベトナムと続いてブータン王国と海外実践となります。

世界の様々な問題について我々ロータリアンが何が出来るか考えていただく有意義なフォーラムとなることを祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。

それでは熱い男、村松国際奉仕委員長よろしく申し上げます。

ありがとうございました。

フォーラムリーダー 村松 光国際奉仕委員長



フォーラム「国際奉仕」のディスカッションの前に、少しお時間をいただき今一度、グローバル補助金のおさらいをしたいと思います。

地区補助金に関しては、皆様ご承知かと思いますが、グローバル補助金となると当クラブとして未経験のため、ご理解が難しいと思います。初めに、簡単にグローバル補助金のおさらいをさせていただき、その後、ディスカッションをお願いしたいと思います。グローバル補助金とは7つの重点分野に該当し、持続可能かつ測定可能な成果をもたらす大規模な国際活動を支援する補助金です。7つの重点分野とは、平和構築と紛争予防、疾病予防と治療、水と衛生、母子の健康、基本的教育と識字率向上、地域社会の経済発展、環境になります。この度の事業は、疾病予防と治療、水と衛生、地域社会の経済発展、環境の4分野に属します。そして持続可能性が重要です。地域社会のニーズと強みを調査する。恩恵を受ける人々に関与してもらう。研修、教育、呼びかけを行う。現地での物資を調達する。現地の資金源を確保する。モニタリングと評価を欠かさない。事が重要です。そしてシェアシステム、補助金財源についてお話いたします。

米山奨学金贈呈

米山奨学生 ツオルモン アリウナーさん



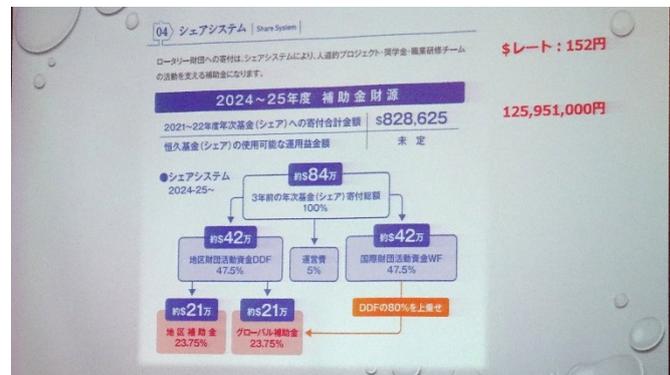
フォーラム「国際奉仕」



高井龍雄ラーニング委員長

皆さん、こんにちは。ラーニング委員会の高井です。本日は国際奉仕フォーラムです。フォーラム主催者としてご挨拶させていただきます。

定款には、奉仕の第四部門である国際奉仕は「書物などを読むことや通信を通じて、さらには他国の人々を助けることを目的としたクラブのあらゆる活動やプロジェクトに協力することを通じて他国の人々と、その文化や習慣、功績、願い、問題に対する認識を培うことによって、国際理解、親善、平和を推進するために会員が行う活動からなるものである。とあります。ポリオプラスへの貢献をはじめ様々な国際的な活動が、



ベースは 3 年前の地区年次基金寄付総額が基準となります。そこから、地区財団活動資金 (DDF) に 47.5%。国際財団活動資金 (WF) に 47.5%に振り分けとなり、DDF よりさらに半分ずつ地区補助金とグローバル補助

金に振り分けられます。そして、グローバル補助金のすごいところが、さらに WF より事業に対する DDF 資金総額の 80%が上乘せられます。解りやすく具体的な予算例を説明いたします。クラブ拠出金が \$ 3,000 の場合、総補助金額 \$ 50,700 (7,706,400 円) となります。それではこの度のブータン事業の資金計画にあてはめてみると、クラブ拠出金が \$ 5,000 (760,000 円) とした場合、総補助金額は \$ 78,800 (約 12,000,000 円) となります。だからこそ、グローバル補助金事業は大規模な国際援助事業が展開できるのです。

それでは、フォーラムに入りたいと思います。テーマは①当クラブ初となるグローバル補助金事業の取り組みによる「選ばれるブランド育成」の効果について、②今後、当クラブの目指す国際奉仕活動事業についての 2 テーマを各テーブルにてディスカッションをお願いいたします。ざっくばらんな意見交換を目的としております。

1 番テーブル

村松 光会員



- ①
- ・実施実績を作ることによりあらゆる活動の広がりを作ることができるため大いに有効。
 - ・チャンスを生かしたと思うし、今後の可能性を見出す良い機会になっている。
 - ・対外への影響はもとより、クラブ内に対しての影響はとても大きい。

- ②
- ・様々な国際奉仕活動はあるが、卓話だけで無く、外で活動することにより無限の可能性と更なる活動の広がり期待できる。
 - ・他クラブでも実際に実施しているが、場合により複数年度委員長制度も取り入れるような組織の仕組み自体を見直す必要がある。
 - ・常に挑戦し続ける必要がある。

2 番テーブル

鈴木紳昭会員



- ① 当クラブ初となるグローバル補助金事業の取り組みによる選ばれるブランド育成の効果について。

- ・「選ばれるブランド育成」については、実績の発信が大切でありまずはグローバル補助金事業を達成すること。後に、結果としてブランドに繋がる。
- ・持続可能な事業として、内容が必要であり 3 年 (計画・実践・報告) で事業を終るわけにはいかないと思う。今後、事業を引き継ぐ会長達が大変でありコンセンサスが大切だと思う。クラブでしっかり考えて計画をしなければならないと思う。
- ・ロータリークラブは、個人奉仕が原則なので将来的には独立して取り組んだ方がよいと思う。
- ・ゴミ収集車を寄贈するのは、「ロータリーの 7 つの重点分野」に照らし合わせてもとても良いことだと思う。しかし、その後のゴミを処理する施設等は整備されているのか？

② 今後、当クラブの目指す国際奉仕活動事業について。

- ・フィリピン、ベトナムに続いて、今年度はブータンでの国際奉仕事業を計画していてインパクトのある事業であると考えている。しかし、日本国内の外国人などに対しての国際奉仕活動も考えていいのではないかとと思う。
- ・米山奨学生、学友会を通じて何か国際奉仕事業ができないか考えてはどうか？
- ・豊橋ゴールデン RC の米山奨学生を卒業した方たちに話を聞いて、母国ではどのような事が問題となっているかをヒアリングし国際奉仕活動に繋げたらどうか？
- ・海外と取引しているメンバーであれば、海外での国際奉仕事業について企画、立案をしやすいと思う。逆に、そうでないメンバーであれば国内での国際奉仕事業の入り口として米山奨学生、学友会との接点を持つのもよいと思う。

3 番テーブル

高橋哲也会員



① 当クラブ初となるグローバル補助金事業の取り組みによる選ばれるブランド育成の効果について

- ・最近ではフィリピンやベトナムなどで国際奉仕の事業を行っているが行ったことがないため、想像がしにくい、大きな事が出来る可能性が有りクラブにとって良い PR になると思う。
- ・地区から補助金を使ってくださいと依頼されるが、地区補助金は金額も少なく、手続きも煩雑なため使いにくい。申請時期が早いので委員長 1 人で行う必要があるのも問題。
- ・グローバル補助金は補助金額が多く魅力的ではあるが、やはり手続きの煩雑さと、計画から実行・報告と

複数年に渡って行うことが必要となる可能性があるため、単年度制のロータリーにとってはあまり馴染まないのではないのか。

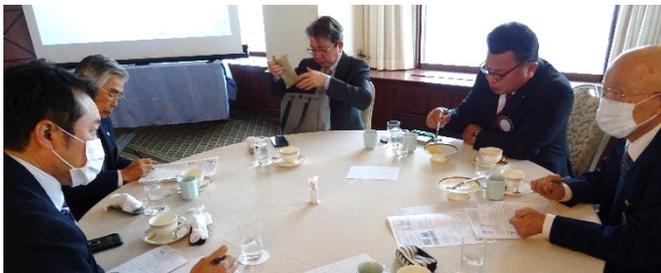
- ・北クラブは基金を作って独自に奨学生を支援していると聞く。地区補助金はクラブ拠出金に対して戻ってくる補助金額が少ないので、限られた会員のお金を有効活用できる仕組み作りも今後は必要になるのではないか。

② 今後、当クラブの目指す国際奉仕活動事業について

- ・最近様々な国で事業を行っているが、負担も大きく、一部の会員しか参加が出来ていないので、日本にいる外国人をターゲットにした企画が良いのではないか。
- ・昔は景気も良かったので、主にフィリピンが多かったように思うが、何年にもわたって救急車などを寄贈したりしたが、本当に効果があったかどうかは疑問も残る。
- ・昔は日本の景気が良く裕福で東南アジアが貧しかったが、今は時代が違う。海外へ奉仕をすること自体が時代遅れなのかもしれない。
- ・フードフェスティバルみたいな企画を地元でやってみたら良いのではないか。RFF は名古屋でやっているが、このような事業をロータリーがやることに抵抗がある。規模が大きくなり過ぎているため一部のロータリーや企業が動いている印象があるし、東三河地域から行く人が少ないため、お金だけ出しているように思ってしまう。地元で国際色豊かな手作りのイベントにすれば国際奉仕にも繋がっていくのではないか。

4 番テーブル

酒井正樹会員



岡本会員、牧野会員、西郷会員、今川会員、小笠原会員、酒井会員

効果は周囲の方々の判断によるもの、送りっぱなしでは測定ができないのではないか。

単年度事業が多いので持続可能な事業にしていくべきである。

前回のベトナム自転車寄贈では相手国のニーズにあったものである。

恩恵を受ける側（使用する方々）に使用方法の指導が必要である。

単年度の事業形態のため継続して活動ができない。

2年目以降、相手先へ持続してフォローすることが必要である。

送ったものをより長く使ってもらうための工夫が大切である。（適切な使用方法、点検修理方法）

5 番テーブル

太田和彦会員



① 当クラブ初となるグローバル補助金事業の取り組みによる選ばれるブランド育成の効果について

- 価値観は、国によって違う。また、その国も事情もわからないため、その国が何を求めているか、手探りをしながら、取り組むことが必要だと思う。
- どのような反響があったかを聞くことが必要で、あとからの評価が重要ではないかと思う。ブランドはあとから付いてくるものだと思う。
- 事業の取り組みの成果を、市民、地域に伝えられるが、ポイントで、伝わらないと、ブランドには繋がらない。イメージアップにはならないと思う。
- 地元の新聞などで、地域社会に情報を流し、取り組みを見てもらうことが、ロータリー（ゴールデン）について知ることになり、よって選ばれるブランドに繋がっていくと思う。→会員増強にも繋がる。
- 奉仕活動後は、結果報告をする必要があると思う。

② 今後、当クラブの目指す国際奉仕活動事業について

- グローバル補助金を使うのか、地区の費用で事業に取り組むのかを考え持続可能な活動を計画する。
- 日本は、永住、留学、就職、技術取得などで外国人が増加している。
日本の相対的貧困率は 15.7%（6 人にひとり）で、G7 のなかでも高い数字です。
日本においても生活に困窮する人々が多くいます。
その日本に視点を置いて、身近なところを大切にして、日本が住みやすい場所となり、日本という国を知ってもらうため、外国の方との交流活動事業や、新たな奉仕活動事業も考えられる。
- RI テーマが決まっています、わがクラブのテーマも年度ごとに違う。
5年ぐらいを目途に、事業を決めていく。その時に相手の国が見えてくるので短期間でもいいので、継続的な奉仕活動を願っている。
- 過去には、技科大との繋がりから、国際奉仕活動事業をおこなっていた。
留学生との交流や、必要ならば、出身地への交流活動や支援活動をおこなっていくことも考えられる。

6 番テーブル

保永真生会員



① 当クラブ初となるグローバル補助金の取り組みによる「選ばれるブランド」育成の効果について

相手クラブ、相手国をよく知り、まずはニーズが何かを知ることが入口であり大変な事でもある。

グローバル補助金を活用するという事は、多方面に大きなインパクトをもたらすことになるので、各方面へ向けての効果は大きく一つのキーポイントとなる。

豊橋ゴールデン RC の存在価値を示せる良い機会。うまく出来ないという状況を前向きにチャレンジする事で、もしかしたら出来るかもしれないという希望に変わり、またクラブ内にも変化をもたらすきっかけとなるので、クラブ活動を行うことにより更に活性化することにも効果を見込める活動である。

当クラブ初チャレンジのグローバル補助金を活用する事が、即時にブランドになるとは思わないが、良い機会として会員の見聞を広める価値はある。

ブランドは会員であるという認識のもと、活動によって学びや見識が広がる事によって人間性が磨かれていききっかけとなるのは活動をするからである。教科書や机上の空論では何も育たず磨かれぬ。今年度の「育てる」というテーマにふさわしい活動を様々な分野で行なっていると、積み重ねや努力することが大事だと思う。

② 今後当クラブの目指す国際奉仕活動事業について

なかなか協議の難しい状況の中で、想いを持って各方面で活動をされている様子が見受けられ、ここ 5 年くらいでかなり変わってきたという印象がある。

委員長一人で抱えこまずに上手に周りを巻き込んで活動をしてもらいたい。

大変喜ばしい環境である。

継続性も踏まえた上で事業や方向性を構築していけるとより良い。

相手国、相手クラブの状況を知り情報収集をしてニーズに合う事業なのかどうかをよく見極める必要がある。

近年の国際奉仕はコロナ禍の影響等もあり、少人数参加での奉仕活動となっているが、本来ならクラブ全体で見える化する必要もあり、大勢の会員と一緒に現地へ赴き、現場での出来事や空気感を共有できるとより良いと思う。

何が正解かは誰にもわからないし答えはないと思うが、やってみたいという気持ちを尊重するクラブであってほしい。

7 番テーブル

三輪桂司会員



① 当クラブ初となるグローバル補助金事業の取り組みによる選ばれるブランド育成の効果について

- ・ゴールデン RC の公共イメージ向上。
- ・選ばれるブランド育成のために、もっと各ロータリーへも、ゴールデン RC がやっている取り組みを周知すべきである。

- ・FaceBook、インスタ等において、ゴールデン RC がやっている国際奉仕事業を掲載すべきである。
→一般の方からするとロータリークラブが何をしている団体なのかわからない。

- ・ロータリーの奉仕活動がニュースになってもいいのでは…。I serve がロータリー精神ではあるが…。
- ・ゴールデン RC だけでは、国際奉仕の内容が、大きな事が出来ない現状がある。(1 台のパッカー車を寄附する程度)

他のロータリークラブと共同事業をすることにより、もっと大きな国際奉仕事業が出来ると思う。
(10 台のパッカー車を寄附する等)

② 今後、当クラブの目指す国際奉仕活動事業について

- ・今回の国際奉仕活動事業に対して、PDCA サイクルにて検証する必要がある。パッカー車があとあともしっかり使ってもらっているか？

定期的を確認するべきである。バイオマス発電に至るまでの流れなど…。やりっぱなしでなく、定期発表をしていく。

- ・パッカー車の使い道のマニュアル化作成し、確実に使ってもらい、ブータン王国に貢献する。

- ・豊橋在住の外国人との交流、理解を深める機会にする事業にしてはどうか？

- ・豊橋市に貢献できる国際奉仕活動事業を目指してはどうか？

8 番テーブル

三浦時子会員



【当クラブ発となるグローバル補助金事業の取組みによる選ばれるブランド育成の効果について】

- ・受益者の立場で考えることが最も重要であるが、補助金事業をやっていることを身近な方々へ伝え、ロータ

リーの国際奉仕における存在価値を認知してもらうことも大事。そこに賛同し、結果として会員増強にも繋がる。

- 取組みの「発信力」がキーになる。動画・アニメなど分かりやすい媒体でどうやって発信するか。ブータンの事業等もインパクトがあり、一般の方々に当クラブの取組みを伝えることでブランド向上にも繋がる。大きな事業でなくても、1つの地域、小さい活動の積み重ねがブランドになる。
- 現地の人創りが大事。ここもサポートする必要がある。現地の理解を求めながら取り組むその HOWto がブランドになる。
- 奉仕事業を通じ、現地や地元がおかれている環境を認識することができれば、そのサポートもブランド力に繋がるのではないかな。
- 取組み自体を発信すること、継続のためのサポートを実施し、それも継続して発信する。両面からの発信で周囲に認知され、それが価値があればブランド力も向上するのでは。

【今後、当クラブの目指す国際奉仕活動事業について】

- 米山の寄付を高める。
- ブランドや会員増強は結果であり、定款に基づいて実施するのが良い。
- 国際奉仕だと、取組みハードルもあり委員長が中心になりがち。委員長に偏らず多くの会員が参加できることも考えられるのではないかな。例えば、豊橋はブラジルの方が多く、その方々の困っていることを知り、サポートする事業など。
- 豊橋にも海外の方が多くいらっしゃる。それを国際奉仕と捉え、社会奉仕の枠組みで、地域課題を解決する（足元の）事業に取り組んでも良いのでは。その方々が自国に戻り、その取組みが評価されていけばブランド向上に繋がる。
- 海外で事業を考えると、補助金が無いと実現が厳しい

ことも現実。国内でも国際奉仕活動ができるのでは。インターンなどへの語学サポートや防災支援など。

趣味の会報告

クラブ・ゴールデンカップ

2月27日(木)平尾 CC

優勝 本多会員

準優勝 村松会員

3位 杉田会員

酒井正樹会員



ロータリーを楽しむ会

2月27日(木)炎や

辻 信之会員



★ニコボックス

本多英司・鬼頭秀幸：国際奉仕のフォーラムです。活発な意見交換をしてください。
村松委員長ガンバッテ！

高井龍雄：フォーラム開会の挨拶をさせて頂き。

村松 光：フォーラム国際奉仕皆様よろしくお願ひ。

岡本久永・高橋哲也・

保永真生・鈴木紳昭・

太田和彦・三浦時子・

三輪桂司：テーブルリーダーをさせて頂き。

保永真生：本日は社会奉仕委員会のメッセージカード貼り付け作業のお手伝いをして頂き、ありがとうございました。

山本雅久：ゴールデンカップ会長ですが参加できず申し訳ありませんでした。

杉田和俊：ゴールデンカップで5位だったにもかかわらず3位に繰り上げとなりニコボックスに協力することが出来ました。

本多英司：メンバーに恵まれゴールデンカップで優勝できました。その後ロータリーを楽しむ会に参加し、ジャンケンに勝ってお米までもらっちゃいました。とても良い一日でした。

村松 光：ゴールデンカップにて準優勝を頂き。

三輪桂司：ゴールデンカップ風邪で行けず申し訳ございません。検査したらコロナ、インフル共に大丈夫でしたので本日例会に来ました。

西郷隆治：昨日ロータリーを楽しむ会を開催しました。楽しいお話ができよかったです。

辻 信之：ロータリーを楽しむ会を開催しました。皆さんの笑顔がいっぱいでした。

井上 穂・今川明彦・

青木一臣：村松国際奉仕委員長フォーラムよろしくお願い。

山口幹夫：例会参加の支援に感謝します。

鵜殿健次：2/28 は田原俊彦の誕生日です。明日からオープン戦始まります。がんばれドラゴンズ。
今川明彦ニコボックス副委員長

★他クラブの例会変更

■3月11日(火) 宝 飯RC 姉妹クラブ 創立記念日例会出席 ■3月12日(水) 渥美RC 菜の花・桜まつり(3/8㊦)
田原パRC 東三河分区 IM参加例会